

# 北海道NPO情報



**NPO推進北海道会議**  
**北海道NPOサポートセンター**  
**北海道NPOバンク**  
**北海道NPO越智基金**

発行 北海道情報宣伝研究会  
札幌市中央区北4条西12丁目  
1976年7月9日第3種郵便物認可  
定価 100円

**【2005年6月号】**

市民活動を支える制度を強化しよう！

もくじ

	ページ
角川の「NPO」商標登録取り消し	2
地方自治土曜講座 / 自治体学会シンポジウム	3
コミュサポ / 事業・活動報告	4
コラム / 団塊世代起業科コース	5
研修日誌 / バンク情報 / 法人数	6
札幌市介護事業所ガイドブック / 推進会議10周年	7
NPOサポート事業紹介	9
NPOな・・・(書籍・イベント紹介)	10
情報BOX (イベント案内)	11
助成金情報 11件	12 ~ 16



## 『NPOの参考書』

NPO法人向け諸届け出ガイドブック  
事務所に1冊必携のマニュアルです。

- ・ 設立登記 (法務局)
- ・ 登記完了届 (道庁)
- ・ 変更登記 (法務局)
- ・ 事業報告書等の提出 (道庁)
- ・ 任期満了に伴う役員の変更 (法務局と道庁)
- ・ 任期途中の役員の変更 (法務局と道庁)
- ・ 事務所移転 (法務局と道庁)
- ・ 定款の変 (法務局と道庁)

**諸届ひな型のCD付き**

定価 2,100円 (税込み)

2005年5月28日発行

発行 北海道NPOサポートセンター

**【問合せ】**

北海道NPOサポートセンター  
TEL 011-204-6523  
FAX 011-261-6524  
E-mail npo@mb.infosnow.ne.jp



改訂版

**さっぽろNPOのほん**  
札幌市内のNPO法人網羅！

北海道認証分376団体、内閣府認証分73団体の法人名・住所・連絡先電話・FAXの一覧です。

定価 500円 (税込み)

2005年2月28日発行

発行 北海道NPOサポートセンター

**【問合せ】**

北海道NPOサポートセンター  
TEL 011-204-6523  
FAX 011-261-6524  
E-mail npo@mb.infosnow.ne.jp



**朗報！ 特許庁より「NPO」「ボランティア」の商標取消の連絡がありました。**

**【緊急報告】**

特許庁が「NPO」「ボランティア」の商標登録を取消 2005年5月17日 情報発信者 弁護士 三木秀夫

(NPO関係異議申立人)  
 特定非営利活動法人 日本NPOセンター  
 特定非営利活動法人 大阪NPOセンター  
 社会福祉法人 大阪ボランティア協会  
 特定非営利活動法人 関西国際交流団体協議会  
 特定非営利活動法人 市民活動情報センター  
 シーズ=市民活動を支える制度をつくる会

(ボランティア関係異議申立人)  
 社会福祉法人 大阪ボランティア協会  
 特定非営利活動法人 静岡県ボランティア協会  
 特定非営利活動法人 とちぎボランティアネットワーク  
 特定非営利活動法人 日本NPOセンター  
 特定非営利活動法人 日本ボランティアコーディネーター協会  
 財団法人 富士福祉事業団

(上記代理人) 三木秀夫(弁護士) 平野和宏(弁護士・弁理士) 山本俊則(弁理士) 那須智美(弁護士)  
 記

「NPO」「ボランティア」の商標登録に対する異議申立に関して、本日、特許庁からの決定書が送達されました。その決定は、(株)角川ホールディングスが有している「NPO」「ボランティア」の商標登録を取消すものであります。

取消理由は詳細を極めるものではありませんが、理由の中に「この語について特定人に独占使用を認めることは公益上適当とはいえず」と、言葉の公益性に言及した部分もあり、画期的な決定と考えます。

本件では、広く皆様からのご支援を頂いておりましたが、まずは所期の目的を達成したものであり、皆様に取り急ぎご報告を差し上げます。

なお、この特許庁の取消決定に対しては、商標権者である(株)角川ホールディングスは、決定謄本の送達があった日から30日以内に、特許庁長官を被告として、決定の取り消しを求める訴訟を提起することができます。

今後は、同社がどのように対応するかを注目したいと思います。

<これまでの経過概要>

- 2003年 6月 3日 本件問題についての情報発信
- 2003年 6月 5日 マスコミ等の報道
- 2003年 6月 6日 角川ホールディングスが各紙に社告掲載
- 2003年 7月 25日 商標登録異議申立書の提出(特許庁へ)
- 2003年 8月 25日 証拠を添付、補正書並びに口頭審理を求め上申書提出
- 2004年 6月 17日 特許庁が取消理由通知(角川側に意見書提出の機会付与)
- 2004年 8月 9日 角川ホールディングスが特許庁に意見書を提出
- 2004年 11月 17日 角川側の意見書に対する回答書を特許庁に提出
- 2005年 5月 10日(5月17日送達) 特許庁が「NPO」商標取消決定
- 2005年 5月 11日(5月17日送達) 特許庁が「ボランティア」商標取消決定

<NPO商標に対する決定の結論要旨>

結論：登録第4665822号商標の登録を取り消す。

本件商標は、標準文字よりなるものであり、その外観上の印象力及びこの語の有する意味からみて、創作性に欠け、指定商品の主たる内容を表示記述するものであって、取引者・需要者によって「雑誌、新聞」の自他商品識別標識と認識される程度が極めて低く、この語を含む題号の、NPO法人等の発行に係る定期刊行物等が多数存在する実情が認められ、また、この語について特定人に独占使用を認めることは公益上適当とはいえず、かつ、本件商標が使用された結果、自他商品識別力を獲得していた等の特段の事情もないことよりすれば、これをその指定商品である「雑誌、新聞」に使用しても、需要者が何人かの業務に係る商品であることを認識することができない商標である、というべきである。

そして、本件の取消理由の通知に対する商標権者の意見・主張は、いずれも妥当なものとはいえず、取消理由通知を覆すに足りないものである。

したがって、取消理由の通知で示した理由のとおり、本件商標の登録は、商標法第3条第1項第6号に違反してなされたものであるから、商標法第43条の3第2項の規定により、取り消すべきものである。

なお、登録異議申立人らは、平成15年8月25日付の上申書で口頭審理を行うよう申立てているが、本件は、これを開催せずとも審理を進めることができると判断されるので、その申立ては採用しないこととした。

<ボランティア商標に対する決定の結論要旨>

結論：登録第4665823号商標の商標登録を取り消す。(以下、略)

<決定書の全文について>

三木秀夫法律事務所のホームページに掲載。 <http://www5b.biglobe.ne.jp/~mikihide/page012.html>

\*\*\*\*\*

上記記事の問い合わせ先 今瀬 政司 氏 Imase Masashi  
 特定非営利活動法人 市民活動情報センター (SIC)  
 〒552-0021 大阪市港区築港 2-8-24 p i a NPO 506 号室  
 TEL:06-4395-1144 FAX:06-4395-1145  
[imase@ppp.bekkoame.ne.jp](mailto:imase@ppp.bekkoame.ne.jp) <http://www1m.mesh.ne.jp/~sic/>

ホームページに掲載中！！  
**【緊急報告】**特許庁が「NPO」「ボランティア」の商標登録を取消  
<http://www1m.mesh.ne.jp/~sic/shouhyou/>

\*\*\*\*\*

## 「地方自治土曜講座」に参加しませんか？

地方分権の時代を担う自治体職員の能力開発に資することを目的に、1995年から行われている「地方自治土曜講座」には、全道各地の自治体職員を中心に毎年約350名が参加されます。今年も6月11日スタート。下記日程で開催されます。

第一回 6月11日(土) 公共は誰が担うのか～公共 行政の新たな展開～

9:50- 開講あいさつ 森 啓(土曜講座実行委員長)

10:00-11:00 講演「公共をめぐる攻防～市民的公共性を考える～」樽見 弘紀(北海学園大学教授)

11:05-12:15 講演「東根市における業務のアウトソーシング」土田 正剛(山形県東根市長)

13:15-15:40 パネル討論「公共をどのように捉えるか～NPO活動の位置、指定管理者・アウトソーシングの展開～」コーディネーター:佐藤 克廣(北海学園大学教授)

パネリスト:樽見 弘紀、土田 正剛、小林 董信(NPO法人北海道NPOサポートセンター事務局長)、森影 依(株)インテリジェント・リンク代表取締役社長)

第二回 7月9日(土) 三位一体改革とこれからの自治体財政

第三回 8月27日(土)8月28日(日) サマーセミナー in 奈井江町

第四回 9月17日(土) 市町村合併と住民自治

第五回 10月29日(土) 地域産業の新展開 - コミュニティビジネスと建設帰農

会場 第1, 2, 4, 5回 北海学園大学2号館3階31番教室(札幌市豊平区旭町4丁目1-40)

札幌市営地下鉄東豊線学園前駅下車。3番出口直結。駐車場は利用できません。

第3回(サマーセミナー) 奈井江町文化ホール(愛称:コンチェルトホール)JR 奈井江駅前徒歩1分

(主催)北海道地方自治土曜講座実行委員会・北海道自治体学会

(後援)北海道、北海道市長会、北海道町村会 (受講料等問い合わせ事務局) 所在:〒060-0005 札幌市中央区北5条西6丁目 札幌通運ビル8階 北海道NPOサポートセンター内 &FAX 011-261-1921

## 【北海道自治体学会政策シンポジウム】開催日:6月12日(日)

場 所:北海道大学学術交流会館(札幌市北区北8条西5丁目)

参加費:会員:¥1,000-, 非会員:¥1,500- 学生:¥500-

内 容: 実践報告(10:00~11:45) ~会員を中心とする発表者からの報告

候補:山本 契太さん((株)ニセコリゾート観光協会 統括部長)「株式会社化した町の観光協会」

下間 啓子さん((NPO)旅とぴあ北海道 代表理事)「旅は生きるエネルギー～高齢者・障がい者の旅行支援」

春日 隆司さん((財)下川町ふるさと開発振興公社クラスター推進部部長)「森林クラスター最前線!」

総会(兼:昼食)(12:00~13:15)

分科会(13:30~16:00)

1)ワークショップ:防災を通しての自主・自立のまちづくり

住民向けの「災害図上体験講座」を通じて、災害時における必要な行動・対処法といった「生き抜く」ことを学び、自分たちで考える-住民主体の「自主・自立のまちづくり」となることを、「お上」の指図で動く避難訓練と対比することで見えてくる自治・まちづくりを考える。

進行役:今 尚之さん(北海道教育大学旭川校)ファシリテーター:佐々木 貴子さん(北海道教育大学函館校)

2)分科会:「合併」の時を経て見えたもの

合併についての様々な検討プロセスから、自治体の「ガバナンス」とは何かを探る。ここから、見えてきた行財政運営、行政の役割、合意形成(コミュニケーション)など、今後に向けた重要な論点と今後の自治の展開を探る。

進行役:森 啓さん(北海学園大学教授) パネリスト 桑原 隆太郎さん(風連町・代表運営委員)

宮下 裕美子さん(月形町) 福村 一広さん(ニセコ町) 中川 功さん(留辺蘂町)

3)トークセッション:自立から持続可能な地域社会へ

地域の経済的な自立をテーマに、午前中の実践報告者で討論します。「地域での生業を成り立たせることとは?」「地域をつくるパートナーシップとは?」熱い思い飛び交うトークをご期待ください。

進行役:松本 聡さん(酪農学園大学教授)パネリスト 山本 契太さん((株)ニセコリゾート観光協会)

下間 啓子さん((NPO)旅とぴあ北海道) 春日 隆司さん((財)下川町ふるさと開発振興公社)

コメンテーター 吉岡 宏高さん(札幌国際大学専任講師, LRTさっぽろ代表)

## ミニ土曜講座～地方自治とNPO～の報告

4月に北海道NPO サポ - トセンター研修室で、3回ミニ土曜講座を開催しました。地方自治土曜講座から3名の実行委員をお招きして、4/9(土)酒井智美さん「自治体アウトソーシングの進展とNPO」4/16(土)渡辺三省さん「議会への市民参加の可能性～市民、NPO等との連携と緊張関係の間で～」4/23(土)長谷部英司さん「機能的な参加型評価のあり方」NPOと自治体とのかわり方や市民参加のあり方など、NPOが地方自治において担う役割を考えてみました。本業は札幌市職員であるアグレッシブな3人の講師からそれぞれの専門領域(得意分野)を切り口として問題提起していただきました。各回17人～10人とばらつきはありましたが、熱心な参加者のみなさんとディスカッション形式で講座を進めることができました。



## 今年もやります！コミュサポ事業

昨年度札幌広域圏（石狩支庁管内）8市町村で地域サポーター団体13団体とホームページ作成希望の110団体が参加して、コミュサポ事業を展開してきました。今年度は、新たに昨年参加した団体が新しい団体のサポートに廻るといった枠組みで取り組みます。地域のまちづくりを目標に、無料のホームページ作成ソフト「WEB Maker」をツールとして札幌広域圏組合の「コミュサポ」サーバーに市民活動団体100団体のホームページをアップする予定です。

札幌広域圏管内（札幌、石狩、当別、厚田、浜益、新篠津、江別、北広島、恵庭、千歳）の10市町村に所在する市民活動団体対象）の市民活動団体のみなさまへ。

地域で活動するボランティア、市民活動グループ、NPOなどの皆さん、自分たちの活動をホームページで紹介してみませんか？「でも、詳しい知識がないからなあ…」そんな心配はいりません。札幌広域圏組合の「コミュサポ」が、皆さんのホームページ運営を応援します。

▶ **募集・利用料** 募集団体数:100団体 **利用料:無料**

▶ **参加申込** 「参加団体登録申請書」を参加団体の住所がある各市町村の担当窓口へ、直接持参、FAXのいずれかの方法で提出してください。

「参加団体登録申請書」は各市町村の担当窓口で配布しています。また、北海道NPOサポートセンターホームページからダウンロードすることもできます。各市町村の提出窓口は、札幌広域圏組合事務局までお問い合わせください。受付期間：2005年5月10日より--100団体になるまで！！

札幌広域圏組合 060-0001 札幌市中央区北1条西1丁目明治安田生命札幌北一条西ビル3階  
TEL：011-290-1313 FAX：011-290-1311

### 年度末書類作成講座開催報告

内閣府や道では、報告書の提出状況や内容を公表するなど、徐々にNPO法人への監督を強化する事例が増えています。特定非営利活動促進法では、情報を公開することで市民によるチェック機能を重視することをうたっていますから、事業報告書の提出という「説明責任」をしっかりと果たしたいものです。

そこで、このNPO法人のための年度末事務講座では、総会で法人としての情報共有と合意形成をはかり、所轄庁へ事業報告書を提出し、法務局で変更登記の申請をするという、年度末事務の一連の流れをすべてひとつの講座に詰め込んで1日研修として実施しました。4月18日と5月9日の2回、北海道NPOサポートセンター研修室において10:00～15:00の日程で開催しました。2回合わせて26名が受講しました。参加者それぞれ総会運営や道などへの年度末提出書類作成方法、登記変更が必要な場合の確認などを行い、有意義な講座だったと評価していただきました。



### 事例研究講座 ～NPOが運営する介護事業所～ 報告

いま、NPO法人で指定介護事業所を運営する人達が増えています。資本金0円で設立できるNPO法人。でも介護事業所を立ち上げるにはそれなりのお金が必要ですし、特定非営利活動促進法や介護保険法など理解する法や仕組みなどがたくさんあって、書類作成だけでなく運営そのものが大変です。

では、どんなことに気をつけなければいけないのでしょうか。実際に介護保険の事業所を運営されている3人にお話を伺います。5/16（月）在宅サービスどさんこ理事長天野祐子さん 5/23（月）介護グループむらさき理事長米田久美子さん 5/30（月）ケアグループみらい理事長谷口 道徳さん。18:30～20:30 北海道NPOサポートセンター研修室で実施しました。各回8名～11名参加し、常に地域の課題を見逃さない姿勢と確実な事業試算（スタッフの件費確保）が新たな事業展開につながっていることなど経営に不可欠な要件をたくさん聞くことができました。

## NPO起業科 団塊世代向けコースのお知らせ

「2007年問題」という話題が持ち上がっています。戦後生まれの団塊世代が定年退職の時期を迎えます。3年先のことを今から考え、「定年後の楽しい生き方」を模索しませんか。すでに退職された60代前半の方にも役に立つ講座を企画します。

昼間コース 6月の土曜4回(4日、11日、18日、25日)午後1時~4時

満員御礼!

夜間コース 6月の火・金曜6回(7日、10日、14日、17日、21日、24日)  
午後6時30分~8時30分

まだ空きがあります

会場 北海道NPOサポートセンター研修室(札幌市中央区北5西6札幌ビル8階)

講師 NPO推進北海道会議/北海道NPOサポートセンタースタッフ

定員 20名(最小催行人員10名) 受講料 12,600円(消費税・資料代・実地研修交通費込み)

カリキュラム 第1日 アイスブレイキング(NPO基礎知識の習得)

第2日 講義「団塊の世代とNPO」(予定)とディスカッション 講師:NPO推進北海道会議佐藤隆事務局長

第3日 実地研修「N-Powerツアー」NPO活動拠点の見学(3~4カ所予定) 市内のNPO事業所を訪問します

第4日 事業プラン作成 夜間コースは3時間×4日分を2時間×6日に分けて実施します。

申込み 夜間コースのみ受け付けております。ご住所・お名前・年齢をご記入の上、以下まで。

FAX 011-281-8807 e-mail npo@mb.infosnow.ne.jp

問合せ 電話011-271-5208(担当:松本、山本)

### サポセンスタッフの落書きのコラム 松本 公洋

先日、NPO推進北海道会議の設立10周年記念のつどいがありました。今も耳に残るNPOサンバ……。ご来場のみなさまありがとうございました。つどいでは、10年の時の流れが語られましたが、この機会に私もNPOに関わっている経緯を振り返ってみたいと思います。

結論からすれば、「自己実現」ができています。なぜなら、民間で、非営利で、公共的な仕事をするNPOで働いているから。そんな私は、今思えば、小さい頃から公共性の高い仕事に尽きたいけれど、接客もできるような仕事をしたいと思い描いていました。(当時こんな表現ができたわけではありませんが……)

中学生の頃に長期入院したこともあり、福祉や社会問題に目を向け、偏差値教育にも大反発。高校生の頃はボランティア系の実にマイナーな部活に入りました。(部費で東京に行けるといふ甘い言葉に誘われたという理由もあり……。(笑))

そんな頃、他校の先生から「君は将来何なりしたいの?」と聞かれ、漠然と「まちづくりとかに何か言う人」と、かなりトンチンカンなことを言った記憶があります。さらに「それって市役所の職員?」と聞かれましたが、「そういうことではなくて~」と、モゴモゴ言っていた記憶があります。

今から13年くらい前のことです。当時、NPOなんて言葉もありませんでしたし、市民活動なんて言葉も知りませんでした。私はかなり変わっていたとしか言いようがありません。でも、自分で言うのもなんですが、ある意味先見の目があったのかもしれない。(笑)

要するに、まちづくりにかかわりたいけど税金で飯を食うのは何か嫌、かといってガンガン営利を追求するのはもっと嫌……。いや~私ってかなり我がままです。ハイ。

そんなもんですから、大学時代も何がやりたいのかイマイチはっきりしませんでした。周りは企業が役所へ二者択一で就職する中、やりたい職業が見つけれず、しまいには「営利目的は嫌だけど自営したい」と、これまたトンチンカンなことを言って笑われていました。何で就職先は企業と役所しかないんだろう?と思ったものでした。

また、大学在学中は、大きな災害や事件・事故がありました。阪神淡路大震災、地下鉄サリン事件、福井県沖のタンカー重油流出事故、沖縄基地問題等。なので、卒業旅行は、国内の行ったことのない府県(10箇所)を一筆書きに周りつつ、被災地になった場所で宿泊をして少しでもそこでお金を使うのがいいんじゃないかと思い、旅行代理店泣かせ?の周遊券(フルオーダーメイド、しかも学割)を作り、旅に出ました。

といっても、所詮学生がバイト代を貯めて行く旅ですから、大したお金は使えません。せいぜい、飲食をちょっと買って買い物をする程度。でも、観光客自体が減っているところもあったので、途中寄った鳥取砂丘で「こんな思いで旅をしています」と言ったら、お土産さんのおばちゃんがとても喜んでくれました。被災地に義援金を送ることも大事ですが、実際に足を運んでみるということが地元の人にとってとても励みになると思っていたので、行って良かったなぁと思ったものです。時間は前後しますが、以前有珠山が噴火した際、ちょうど近くの町に住んでいて、噴火が収まっても観光客が来ないことが、改めて気の毒に思ったものです。

ということで長くなりましたが、世の中のあらゆること(分裂気味に!?)に関心のある私としては、活動分野が多岐に渡るNPOの中間支援組織は、ある意味「天職」といえるかもしれません。あ、いや、ちょっと大げさかな。NPOに来る前は、こんなに風呂敷広くなかったんだけどなぁ。(笑)

## NPO研修日記

2005年度 その2



谷口 直子

## 「スタート地点の確認」

札幌もようやく外の空気があたたかく感じられるようになってきました。この季節、新緑から夏至までの北海道が、特に好きです。つい出かけたくなる季節ですね。

「福祉NPO法人スタッフ研修会」が行われた5月28日も、朝からさんさんと陽のふりそそぐ、さわやかな1日でした。会場設営から後片づけまで、あわただしい一日でしたが、とても興味深いお話を伺うことができました。

特に印象的だったのは、「NPO活動のスタートは、まず、『自分のため』という動機。『人のため』からスタートしたのでは動機として弱い。」というお話でした。

私が道庁に勤めたのは、人の役に立ちたい気持ちからでした。道庁に勤めて10年余。いつの間にか、目の前の仕事にばかり気を取られ、目的を見失っていました。

「役所の考えることは机上の空論」という言葉を聞きますが、役所が考えた施策にピッタリと当てはまる「誰か」は、いったいどれくらいいるのでしょうか？

行政による画一的なサービスの限界がみえてきている状況の中で、今まさに目の前にいる人のニーズに、柔軟に応えることの出来るNPOの存在が注目されています。例えば、税金を減らし、その減った分を、NPO活動へ寄付することにより、住民自身がサービスを選ぶシステムに転換していきことができれば、今よりもサービスを利用している方々の満足度を高めることができるのかもしれません。

世の中が変わり続ける限り、いつの時代も、「絶対」というものなど存在しないのでしょうかから、より良いものを求めて、試行錯誤を続けていく中で、「前より、ちょっぴり、暮らしやすくなったな。」と、誰かに言ってもらえたら、こんなに幸せなことはないんじゃないかな、なんて思う今日この頃です。

## NPOバンク融資申込みのお知らせ

第12回融資 申込期間 8月2日から8月18日まで / 融資実行9月下旬  
融資申込みの際に必要な書類は下記 URL から取り出せます。

## NPOバンクに対する問い合わせ先・資料請求先

〒060-0062 札幌市中央区南2条西10丁目クワガタビル2F  
北海道NPOサポートセンター内 TEL:011-204-6523 FAX:011-261-6524  
[npobank@npo-hokkaido.org](mailto:npobank@npo-hokkaido.org) [http://npo-hokkaido.org/bank\\_hp/index.htm](http://npo-hokkaido.org/bank_hp/index.htm)

## 特定非営利活動促進法に基づく申請受理数および認証数、不認証数等

内閣府ホームページから <http://www5.cao.go.jp/seikatsu/npo/data/pref.html>

全国の申請受理数「内閣府・北海道含む」 4月30日現在（内閣府のホームページ）	受理数	認証数	不認証数	解散数
	23085	21628	136	399
道内の申請受理数 4月30日現在（北海道）	受理数	認証数	不認証数	解散数
	840	797	0	18

北海道内のNPO認証状況は道庁HP <http://www.pref.hokkaido.jp/kseikatu/ks-bssbk/npo.index.htm>

札幌市のエルプラザ4施設（男女共同参画センター、環境プラザ、消費者センター、市民活動サポートセンター）が一括で指定管理者制度に移行します。指定管理者へのチャレンジを含めた勉強会を6月中旬に開催したいと考えております。関心をお持ちの団体は是非ご連絡ください。呼びかけ人：npoSMNネット代表藤原哲朗。

えるぷらざオフィス市民活動サポートセンター事務ブースNo5 電話011-728-7373

FAX 011-728-7280 メールアドレス [share@comet.ocn.ne.jp](mailto:share@comet.ocn.ne.jp)

## 福祉 NPO 法人スタッフ研修会開催しました

【北海道新聞社会福祉振興基金助成事業】福祉 NPO 法人スタッフ研修会を5月28日(土)午前10時～午後4時、北海道クリスチャンセンターにて開催しました。全道から100名が参加しました。

全道でNPO法人約70事業所が介護保険事業及び支援費事業を行っています。午前中山本純子さっぽろ介護NPO支援ネット事務局長の司会で道庁と運輸局の担当者から「介護保険」「障害者自立支援法」「有償福祉運送」について行政説明を受け、杉岡直人北星学園大教授の講演を聴き、午後の分科会へと進みました。介護保険制度見直し、移送サービス、障害者自立支援法、小規模多機能施設、事務処理など5つの分科会は、参加型でそれぞれ意見交換しました。まとめの集会で各分科会から簡単な報告を受け、杉岡教授の講評ですべての日程を終了しました。2年間実施した福祉NPO研修は今回で終了ですが、来年度も何らかの形で研修交流を企画したいと考えております。(コバヤシ)



行政説明を聞く参加者

まとめ集会で報告する清野介護  
NPO連絡会代表(新得ちいさな手)

## NPO推進北海道会議 設立10周年記念のつどい・・・5月28日開催しました

「NPO推進北海道会議」は、1995年5月17日に設立されました。今年で設立10周年となりました。10年前は、阪神大震災、地下鉄サリン事件が起きた年として記憶されます。以降、NPOの認知度を高め、社会に根付かせるべく活動してきました。この間、北海道NPOサポートセンター、北海道NPO越智基金、北海道NPOバンク等、必要な機能を持ったNPOを創出してきました。10周年を記念して、お祝いの集いを5月28日(土)午後6時～8時北海道クリスチャンセンター2階ホール実施いたしました。集いには山岸秀雄 NPO サポートセンター理事長が東京から駆けつけ、上田文雄札幌市長はじめ NPO 関係者120名が参加し、懇親を深めました。佐藤隆 NPO 推進会議事務局長の司会で開会し、田口晃代表理事から推進会議スタート時「人類史の中のNPO」とぶちあげたが、10年で社会変革の一翼を担えるようになった。これからは新たな視点で活動を組み立てる旨の挨拶があり、山岸氏からお祝いの言葉があり、杉山さかえ代表理事の乾杯の音頭で懇親に入りました。遠隔地から参加された、旭川、赤平、北見、釧路、函館のNPOのみなさんの一言スピーチ、途中来場された上田文雄札幌市長の挨拶と新曲「ふるさと札幌」の披露、10周年を振り返る写真100枚のライドショーを行い、最後はワーカーズコレクティブ「えこふりい」メンバー中心の「NPO サンバ」に参加者も加わり盛り上がり、佐藤典子札幌市議会議員の「一本締め」で終了しました。総会にご出席くださいました皆様に厚くお礼申し上げます。(NPO推進北海道会議10周年記念のつどい実行委員会一同)



10周年で挨拶する田口代表

当日出席された議員のみなさま 小川勝也参議院議員、峯崎直樹参議院議員、蝦名清悦道議会議員、大島薫札幌市議会議員、小林郁子札幌市議会議員、坂ひろみ札幌市議会議員、佐藤典子札幌市議会議員  
当日秘書が出席された議員 鳩山由紀夫衆議院議員、横路孝弘衆議院議員  
祝電・祝辞を頂戴した支援者・首長・議員のみなさん 秋山孝二秋山記念生命科学振興財団理事長、逢坂誠二ニセコ町長、小川勝也参議院議員、小平忠正衆議院議員、武部勤自民党幹事長、橋本聖子参議院議員、鳩山由紀夫衆議院議員、町村信孝外務大臣、横路孝弘衆議院議員



フィナーレ「NPOサンバ」で盛り上がる参加者

NPO推進北海道会議/北海道NPOサポートセンター第6回通常総会報告  
5月28日クリスチャンセンターで開催しました。

【推進会議】議長にホームヘルパーノアの沢出桃姫子さんを選任。田口代表挨拶の後、佐藤隆事務局長の提案で事業活動報告、会計決算報告・(監査報告は板垣監事) 事業活動計画、予算についてそれぞれ提案され、拍手で全案件満場一致で承認されました。

【サポートセンター】議長にさっぽろ村コミュニティ工房の加藤知美さんを選任。杉山理事長挨拶の後、小林董信事務局長の提案で事業活動報告、会計決算報告・(監査報告は山田監事) 事業活動計画、予算についてそれぞれ提案され、拍手で全案件満場一致で承認されました。



## 活動紹介 えべつ市民活動・協働ネットワーク懇談会

表記の長い名前前の懇談会が昨年1月から活動しています。

私は江別市役所のアドバイザーを仰せつかっており、最初からこの懇談会に関わってきました。江別市では2002年「市民協働のまちづくり推進方針」を策定し市民活動支援の取り組みを始めました。以来、まちづくりモデル事業、市民活動団体調査、市民協働フォーラムなどを実施してきました。

当時の政策企画室村中参事は、「市役所主導でなく市民が自発的にまちづくりに参画できる場」が必要と考え「協働を考える懇談会」の呼びかけを市内の市民活動団体（市が把握している136団体）に行いました。昨年2月15日に40人が参加し第1回懇談会が開催され、世話人8人を選びました。以降、この世話人を中心にもっぱら毎月1回日曜日の午前中（時には午後も）懇談会を開催してきました。昨年11月には市民会館で「えべつ市民活動見本市」を自主開催し27団体がパネルやブース展示で参加しました。その後「場」と「情報」の実行委員会ができ、市広報紙7月号に懇談会の情報を市民編集で提供するため精力的に取り組んでいます。市民活動の拠点施設づくりを模索する動きとして5月14日に市内の遊休施設見学を行い、6月5日には札幌のエルプラザ、道立しみせん、旧曙小学校（あけぼの開明舎）の見学をすることとしています。

市民の自発的な意志を尊重する市の姿勢と自ら協働の実践に踏み切った江別の市民活動団体。この取り組みに全国的に注目が集まっています。

（報告 小林董信）

詳しくは下記のホームページを参照してください。

えべつ市民活動・協働ネットワーク懇談会

HP <http://www.webone.ne.jp/~kyoudou/index.html>

江別市HP <http://www.city.ebetsu.hokkaido.jp/>

江別協働ブログ <http://blog.livedoor.jp/ebetsu1/>



5月22日野幌公民館前にて。懇談会のメンバー

## 札幌市介護保険・福祉サービス「事業所ガイドブック2005年度版」好評発売中

このガイドブックでは、札幌市内の介護保険・福祉サービス事業所1,457箇所及び札幌市内にサービス提供する市外事業所（名称、住所等の基本情報のみ）、札幌市在宅介護支援センターの情報を掲載しています。また、サービス提供地域・時間、人員体制、利用料、系列サービスなどの情報が満載！です。

介護保険事業所は在宅・施設サービス、対象外事業所は在宅系のホームヘルプ、理美容、配食、ミニデイ、移送、施設系の養護老人ホームなど各事業所（今年から生活支援ハウスも掲載）を網羅し、とっても充実！

価格：2,000円（税込み）A4判（470ページ）送料別途

### NPO推進北海道会議・北海道NPOサポートセンターから2005年度会費納入のお願い

このニュースは会員のみなさまからの会費で作成し配布しています。4月から新年度になりましたので2005年度の会費の納入をお願いいたします。NPO推進北海道会議/北海道NPOサポートセンターは、北海道内でのNPO活動の促進のため、役割分担して活動しております。趣旨をご理解の上、引き続き会員としてご参加いただくようお願いいたします。

（すでにお支払いくださったみなさま。ありがとうございます）

【NPO推進北海道会議】1995年設立。NPOを広めるための広報活動、フォーラムやシンポジウムなどの開催、NPO市民講座の開催、行政との連携、政策提言活動、情報の提供活動を行っています。

会費個人一口2,000円団体一口5,000円郵便局口座番号：02760-8-9885 口座名義「NPO推進北海道会議」

【北海道NPOサポートセンター】推進会議の活動をさらに広げるかたちで、1998年3月に設立。推進会議の活動が主にNPOを広めるのに対し、サポートセンターでは市民活動団体からの相談や、法人格取得に関する具体的なアドバイス、NPO法人連絡会の開催、NPO法人の実務サポート等を行っています。

会費個人一口3,000円団体一口10,000円郵便局口座番号：02700-1-62184 口座名義「北海道NPOサポートセンター」

推進会議、サポートセンター両方の会員になって頂いても結構です。（大歓迎です。）

## 北海道NPOサポートセンターの「サポート事業」紹介 04年度改訂版

北海道NPOサポートセンター会員に対するサービス事業です。

詳細については個別にご相談に応じますのでお気軽にお問い合わせ下さい。電話011-271-5208

サポートの内容	詳細	規格・単位	基本料金
NPO法人申請手続 法人申請は時間がかかります。(4ヶ月~6ヶ月)	相談・書類作成等アドバイス(初回相談無料)	基本料金	21,000~
身分証明書作成	ラミネートを使った身分証明書を作成します。	1枚	210
印刷(予約制) 黒インク印刷のみ (カラー印刷、製本等は 良心的な印刷所を紹介)	簡易印刷機(リソグラフ)で印刷します。 基本料金は製版1枚、紙代込みの場合です。 (厚紙や色紙は少し高くなります。 ご相談ください) A3まで印刷可、10枚以上~(両面は片面の倍)	片面 B5 1,000枚	2,738
		片面 A4 1,000枚	2,738
		片面 B4 1,000枚	3,438
		片面 A3 1,000枚	4,838
名刺作成	パソコンで名刺を印刷します。(100枚単位) 片面初版代:315円、 両面初版代:525円が別途かかります。	片面 カラー	1,470
		片面 白黒	1,575
		両面 カラー	2,310
		両面 白黒	1,890
横断幕・ポスター	パソコンで長尺紙(幅42cm)に印刷します。	片面のみ	1,050~
シール	NPOのロゴマークシール 1シート	大5枚、小10枚 各	210
エプロン	ロゴマーク、事業所名を入れてエプロンを作ります。	5枚以上 1枚	4,515
日常会計業務支援	パソコンで、伝票入力から決算書作成まで実施	基本料金(1仕訳)	63~
介護保険・支援費指定事業所 申請事務サポート	指定事業所になるための支庁・市役所提出書類作成、 提出までのサポートを行います。	介護保険 1事業所	10,500~
		支援費 1事業所	7,350~
介護保険料請求事務	伝送による介護保険請求をします。	1事業所	2,625~

### 北海道NPOサポートセンターの「サポート事業」一覧 (単位:円,税込)

2004.7.1改定

上記の表以外に、不動産売買・賃貸、税務申告、登記書類作成、損害保険、FP関係について、NPOサポート専門  
家会議メンバー等による相談を随時受け付けております。(サポスタッフがお聞きし専門家にお伝えします)

法人認証申請書類、登記書類、会計書類、税務申告、介護保険申請等は、必要に応じてNPOサポート専門家会議メ  
ンバーの専門家のアドバイスをいただいています。NPOサポート専門家会議は、弁護士、司法書士、社会保険労務  
士、行政書士、公認会計士、税理士、損害保険専門家、不動産鑑定士、不動産専門家、建築士、社会福祉士、FPな  
どの専門家が参加しています。

#### NPO推進北海道会議 / 北海道NPOサポートセンター / NPOバンク / NPO越智基金

〒060-0062 札幌市中央区南2条西10丁目クワガタビル2階 IP 050-7541-4799

電話番号011-204-6523, 011-242-4333 FAX番号 011-261-6524

通常業務時間10:00~18:00(土、日、祝日は休む時があります)

#### 北海道NPOサポートセンター相談センター・研修室 / NPO推進北海道会議分室

〒060-0005 札幌市中央区北5条西6丁目札幌ビル8階

電話番号 011-271-5208, FAX番号 011-281-8807

通常業務時間10:00~18:00(月~土)(日、祝日休み) IP電話 050-7543-3291

引越し・旅行・車検のことなら「**札幌**」は「**こび愛ネット**」をご利用ください!ご存知かもしれませんが、飛  
んで!車いすの会をはじめ札幌チャレンジドなど10団体ほどが参加しているもので、札幌さんの商品を利用して、  
「NPOサポセンに還元して!」と言うと商品代金の5%が還元される仕組みです。**どうやって利用するの?**申し込  
みはとても簡単。下記の「こび愛ネット」推進事務局にお電話ください。インターネットからの申し込みもできま  
す。利用サービスは、引越し、旅行(札幌トラベル)、車検・自動車修理(札幌自工)と文房具(札幌商事)などの  
購入です(一部対象外あり)。ぜひご利用ください。

問い合わせ・申し込みは 札幌「こび愛ネット」推進事務局

TEL(011)251-4111内線250番 FAX(011)231-7063

**書籍案内**

**NPOが北海道を変えた。**

道州制と市民自治へのチャレンジ  
編集工房 NODE [ 編 ]  
インテリジェント・リンク [ 発行 ]

四六版 288 頁 ISBN4-902806-00-2

定価 [ 本体 1800 円 + 税 ]

北海道NPOサポートセンターで取り扱い中

**主な内容**

高橋はるみ北海道知事インタビュー  
座談会「道州制とNPO」  
新しいNPO時代に向けての対論・提言  
地域を支えるNPO42の事例紹介

本書を推薦します

**上田文雄 / 札幌市長**

NPOは地域再生、地域創造のエンジンになるべきである。北海道のNPOがいかに地域を変え、地域を元気にしてきたことか。本書が紹介する成功事例は、元気なまちづくりと元気な生き方を求めるものに多くの示唆を与えることになる。

**逢坂誠二 / ニセコ町長**

道州制論議とNPOの現状を知る、決定版！

**北川正恭 / 前三重県知事**

**イベント紹介 【道州制フォーラム】**

- 日時：2005年6月12日(日) 13:30 開会
- 場所：札幌市民会館 札幌市中央区北1条西1丁目
- 参加費：無料
- 基調講演 北海道知事 高橋はるみ氏
- 道州制に対する提言  
(社)日本青年会議所 北海道地区協議会
- パネルディスカッション  
<コーディネーター> 福岡政行氏  
<パネリスト>  
逢坂 誠二氏(ニセコ町長)  
土井 尚人氏(ヒューマン・キャピタル・マネジメント代表)  
高木 晴光氏(NPO法人ねおす 理事長)  
佐藤 祐一氏(北海道大学農学部 1年)  
川南 忠人氏(日本青年会議所北海道地区協議会会長)
- 主催：社団法人日本青年会議所 北海道地区協議会

フォーラム参加をご希望される方はお手数ではございますが、以下のホームページ上からお申し込みください。<http://www.hokkaido-ic.com/>

**問い合わせ**

(社団法人日本青年会議所 北海道地区協議会事務局)  
〒060-0001 北海道札幌市中央区北1条西2丁目経済センタービル9F TEL.011(241)3402 FAX.011(241)3401



**コンサート** チャリティコンサート-夏をうたう-

3歳から18歳までの難病の子ども達の夢をかなえるお手伝いをしているメイク・ア・ウィッシュ オブ ジャパン(MAW)です。

リュート(古楽器)を伴奏に2人のソプラノが「大きな古時計」「この広い野原いっぱい」など、耳になじんでいる楽しい曲をさわやかに歌います。

MAWの活動紹介も行います。

日時 2005年6月18日(土) 午後2時~4時

会場 北海道難病センター3階大会議室

前売り券 1,000円 当日券 1,200円

小学生は無料

(収益は難病の子どもたちのために使われます)

うた 小出 あつき(ソプラノ)

大熊 麻友美(ソプラノ)

網澤 充 (リュート)

MAW J 札幌支部 〒060-0005

札幌市中央区北5条西6丁目札幌センタービル23

Fブルデンシャル生命保険(株)内

sapporo@mawj.org <http://www.mawj.org/>

TEL 011-219-7111 携帯 080-5181-4111

平日午後1~4時

**映画** 「折り梅」は、義母がアルツハイマー認知症となったことで、崩壊しかけた家族がさまざまな葛藤を経て、見事に再生した実話をもとに、人間の可能性を描いた作品である。

監督は「ユキエ」で、アメリカ人の夫とアルツハイマーに冒された妻との固い絆を描き高い評価を受けた松井久子監督。また「折り梅」応援団が組織されるなど、熱いネットワークが全国規模で展開。

資金集めから撮影協力まで、作り手と観客が一体となり1本の作品を作り上げた。

今まで全国で1000箇所以上、動員数は100万人を超え、現在でも自主上映が全国各地で行われている

脚本・監督 松井久子 プロデューサー 松井久子・新藤次郎 制作 近代映画協会

出演 原田美枝子 吉行和子 トミーズ雅 ほか

「折り梅」上映と松井監督のトーク

上映日時 平成17年7月2日(土)

(開場9:00) 9:30~ 12:30~

15:30~ 18:30~

( ~ 全ての上映にトークがついています)

上映場所 札幌市北区北24条西5丁目札幌サン

プラザホール 入場料金 前売り1200円 当日15

00円 上映会主催「折り梅」上映実行委員会 後援札

幌市他 連絡先「折り梅」実行委員会 TEL・FAX

011-747-7314(映画サークル) TEL

011-252-3828(プリズム) 電話予約

も受付しております。市内プレイガイドで販売中

## 情報BOX

### 「医療英会話講習会」のお知らせ

NPO法人エスニコ(お申込はこちらまで)

〒060-0042札幌市中央区大通西16丁目1-13

tel:011-640-2825 fax:011-640-2890

日程:第1回 2005年6月26日(日)~第10回2006年

時間:毎回19:00~21:00

場所:男女共同参画センター3階研究室3エルプラザ北8西3

定員:20名

講師:押味貴之:医師 医療法人慶友会 吉田病院健康相談センター米国CCHCP(Cross Cultural Health Care Program)公認医療通訳 Eric Hajime Jego:PEAK Communication World 代表 旭川厚生看護専門学校 看護英語講師

参加費:一回2000円 学生は1,500円

対象:6月から全部で10回にわたり、「医療の現場で実践できる英会話」の講習会を開催します。実際に医療の現場で働いている方ももちろん、「外国人の友人を病院に連れて行く時に通訳が出来るようになりたい」「医療通訳として将来海外等で活躍したい」「自分が海外で病気になった時のために身につけておきたい」という方も対象です。

#### 「医療英会話講習会」の特色

以下の項目に重点をおいた学習をします。

- ・「読む」「書く」ではなく、「聴く」「話す」スキル ・「医療通訳」の基本的なスキル
- ・「病棟」ではなく「外来」での英会話 ・ロールプレイによる会話の実践
- ・外来の概要の知識・医学に関する基本的な知識・医療英語に関する基本的な知識・日本と海外の医療事情

#### 「医療英会話講習会」の内容と日程

最初の2日間(Lesson 1と2)で診察での基本的な表現と一般的な症状に関する表現を学んだ後、8回に分けて主な診療科別に、その診療科での代表的な疾患に関する英会話を学んでいきます。

Lesson 1: Basic Expressions for Medical Interview

「診察での基本的な英語表現」 6月26日(日)開催

Lesson 2: General Symptoms 「一般的な症状の英語表現」  
7月24日(日)開催

Lesson 3: Internal Medicine 「内科の英語表現」  
9月25日(日)開催

Lesson 4: Dermatology 「皮膚科の英語表現」  
10月30日(日)開催

Lesson 5: Orthopedic 「整形外科の英語表現」  
11月13日(日)開催

Lesson 6: Obstetrics and Gynecology 「産婦人科での英語表現」  
11月27日(日)開催

Lesson 7: Urology & STDs 「泌尿器科とSTDの英語表現」  
12月18日(日)開催

Lesson 8: Ear, Nose, and Throat 「耳鼻科の英語表現」  
1月29日(日)開催

Lesson 9: Ophthalmology 「眼科の英語表現」  
2月26日(日)開催

Lesson10: Surgery 「外科の英語表現」 3月26日(日)開催

市民風車・石狩(かりんぼう&かぜるちゃん)オープニング記念  
~風車の電気を使った自然エネルギーコンサート~  
『風が奏でる音楽祭』

【日時】2005年6月18日(土) 13:00~16:00  
【場所】市民風車・石狩 野外特設会場  
石狩市新港南3丁目 市民風車・石狩敷地内  
アクセス:札幌市街地から車で約40分

【参加費】無料 【送迎バス】100円/人(小学生以上)

発着場所 JR札幌駅・地下鉄麻生駅・石狩市役所前

□開始、終了時間に合わせて運行 □予約優先

□申し込まれた方に詳しい案内を送ります。

【駐車場】500円/台(300台)

□お申し込まれた方に詳しい案内を送ります。

□予約優先 □路上駐車不可

【主催】NPO法人北海道グリーンファンド

【協力】NPO法人ひとまちつなぎ石狩

NPO法人環境エネルギー政策研究所

【後援】石狩市、札幌市

独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構

【内容】■オープニング記念式

・石狩市立樽川中学校 太鼓同好会演奏

・風車の愛称 命名式 ・通電式 他

■風車の電気を使った自然エネルギーコンサート

・庄野真代「飛んでイスタンブール」がヒット(1978年)

・パロシクス 2001年に結成。現在「小樽倉庫No.1」にて音楽とダンスのライブショーを展開。ヨーロッパ古楽や世界の民謡をユニークなアレンジで演奏する世にも不思議なオルケスタ。

・ネイキッドバディーズ 2003年結成。フリージャズピククバンド「洪さ知らず」など様々な現場で作曲や演奏、美術を担当する3人。空の下が良く似合う自由な旅のようなライブ。 □会場には飲食コーナーもございます

【お申し込み方法】参加を希望される方は、HGF([office@h-greenfund.jp](mailto:office@h-greenfund.jp))までお申し込みください。

・お名前(代表者) ・住所 ・電話 ・FAX

・E-mail ・参加人数 ・バス乗車人数 ・駐車台数

【お問い合わせはこちらへ】

NPO法人北海道グリーンファンド(HGF)

〒060-0061札幌市中央区南1条西7丁目岩倉ビル3階

TEL:011-280-1870 FAX:011-280-1871

E-mail: [office@h-greenfund.jp](mailto:office@h-greenfund.jp)

<http://www.h-greenfund.jp/>

第53回北海道社会学会大会プログラム

2005年6月11日(土)・6月12日(日)

開催校 北海道教育大学札幌校

〒002-8502 札幌市北区あいの里5-3-1

TEL & FAX: 011-778-0410 (笹谷研究室)

プログラムの一例

[6月12日(日)]

シンポジウム13:10-16:10(306教室)

司会 金子 勇(北海道大学)

コンパクトシティ札幌のまちづくり

- 都市空間構造の再編とコミュニティ形成の課題 -

札幌市の都市空間構造の特性と再編

橋本 雄一(北海道大学)

札幌市民の地域参加と生活意識のエリア分析

飯田 俊郎(札幌国際大学)

札幌市のコミュニティ政策と市民参加の過去・現在・未来

杉岡 直人(北星学園大学)

コメント 小内 純子(札幌学院大学) 田中 昇平(札幌大学)

## 助成金情報

インターネット環境にないNPOのみなさまへ~「助成金を申請したいが、情報を上手く収集できない」という声を良く聞きます。

最近の助成金は、募集要項や応募用紙をインターネットから取得(ダウンロード)する方式が増えていきます。また、さまざまな助成金情報をインターネットから取得するこ

とができます。

北海道 NPO サポートセンターでは、インターネット環境にない NPO の為に、

IT 推進 NPO の紹介 パソコンの導入設定・インターネット環境整備支援 助成金情報取得支援 / 助成金申請サポートを行っています。(地域によって対応できない場合があります) 詳細はお問い合わせください。

電話 011-204-6523 (担当: 畑)

下記の助成金情報については助成元からの依頼情報(抜粋)です。インターネット環境にない NPO のみなさんに、募集要綱などの FAX サービスを行います。(NPO 推進北海道会議または北海道 NPO サポートセンター会員へのサービスです。)

#### 社会福祉法人 NHK 厚生文化事業団

##### 地域福祉を支援する第 17 回「わかば基金」要項

「わかば基金」は、地域に根ざした福祉活動を推進しているグループに支援金を贈り、その活動を支えます。NHK の放送などで活動の様子を広く紹介して、地域福祉の向上を目指しています。

1. 支援対象 地域で活発な福祉活動をすすめているグループを対象とします。
2. 支援金額 1 グループにつき上限 70 万円です。およそ 15 グループを支援する予定です。
3. 申し込み方法

申請書の「記入上の注意」をよく読んでから、申込書に必要事項をもちろなくご記入のうえ、NHK 厚生文化事業団 東京本部へお申し込みください。

\* 郵送のみ受け付けます。(FAX・メール受付不可)

4. 締切 6月24日(金)必着 【郵送のみ】

5. 発表 10月上旬。

募集要項取り寄せ・申し込み・問い合わせ (平日 9:30 ~ 18:00) 社会福祉法人 NHK 厚生文化事業団  
東京本部(わかば基金事務局) TEL 03(3476)5955  
URL <http://www.npwo.or.jp/>

#### ファイザープログラム

心とからだのヘルスケアに関する市民活動支援プログラムの趣旨

このプログラムは、「心とからだのヘルスケア」の領域で活躍する市民活動団体による「健やかな明日・健やかなコミュニティ」をつくることへの試みを支援することを目的としています。健やかな生活を追求するとともに、未来に向けての長期的な展望のある取り組みへの支援を意図しています。

#### プログラム実施にあたって

このプログラムの実施にあたり、特定非営利活動法人 市民社会創造ファンドが企画協力しています。

#### 助成対象分野

下記のような、「心とからだのヘルスケア」に関するものが対象になります。

1. 成長過程にある人たちの心身の発達を支援する活動  
主に 10 代がかかえる問題を克服し、生きる喜びをもつことを助けるもの
2. 社会的な受け皿がないために健康管理・医療が受けられない人たちの心身のケアを支援する活動  
外国人、路上生活者、PTSD(心的外傷後ストレス障害)の人たちなどを支援するもの
3. 障害をもつ人や療養にある人たちの充実した生き方

#### を支援する活動

身体障害・知的障害・精神障害などの人たち、難病・長期疾病にある人たちの社会生活を豊かにするもの

#### 助成内容について

1. 助成金 上限 300 万円。今年度は総額 2,700 万円、12 件程度の助成を行なう予定。

#### 2. 助成対象期間

2006 年 1 月 1 日から 12 月 31 日(1 年間)。助成金は 2005 年 11 月末日までにお支払い致します。

#### 助成対象団体の要件

下記の要件を満たした市民活動団体(個人は対象となりません)に限りです。

1. 非営利団体であること(法人格の有無は問わない)
2. 日本国内に活動拠点があること
3. 原則として 2 年以上の活動実績があること 等

#### 応募について

1. 応募期間 2005 年 6 月 8 日(水)~6 月 20 日(月)

[当日消印有効]

#### 2. 応募用紙の入手方法

応募用紙は、HP からダウンロードしてご利用下さい。

応募用紙をインターネットから入手できない場合には、郵便でお送り致しますので、郵便番号、住所、団体名、ご担当者氏名、電話番号を明記の上、「ファイザープログラム応募用紙郵送希望」とお書き添えの上、「ファイザープログラム事務局」宛に FAX(03-5309-9004)にてご連絡下さい。なお、書類の郵送には時間がかかりますので、お申し込みはお早めをお願いします。

#### 応募書送付先・問い合わせ先

ファイザー株式会社 ファイザープログラム事務局 担当: 鈴木 〒151-8589 東京都渋谷区代々木 3-22-7 新宿文化クイントビル TEL.03-5309-7663 (月曜日~金曜日 10:00 ~ 18:00) / FAX.03-5309-9004

「2005 年度ドコモ市民活動団体への助成事業」  
- よりよい未来のために頑張る仲間を応援します -

#### 1. 助成対象活動テーマ 「子ども育成」

「子どもを守る」という視点から、次の表で分類した活動テーマのいずれかに該当するもの

- (1) 不登校・ひきこもりの子どもや保護者に対しての精神的・物理的な支援、復学・社会的自立支援活動(フリースクール・カウンセリングなど)
- (2) 児童虐待防止(CAP)やドメスティック・バイオレンス(DV)などからの児童の保護・支援活動
- (3) 子どもの居場所づくり(働く親支援の安全な保育、子どもの不安や悩みに耳を傾けるチャイルドライン等)
- (4) 非行、地域犯罪等から子どもを守るための支援活動
- (5) 上記(1)から(4)以外で「子どもを守る」という視点に立った活動テーマに相応しい支援活動

#### 2. 助成の金額・件数 総額 2,500 万円以内

1 件あたり 50 万円を標準とし、150 万円を上限とする。金額は、事業内容等を勘案の上決定する。

#### 3. 助成対象団体

- (1) 日本国内に活動拠点を有する民間の非営利活動団体で、特定非営利活動法人(NPO)等の法人格を有するもの
- (2) 活動実績が 2 年以上である団体(NPO 等の法人格を有する以前の活動実績を含む)

注) すでにドコモ MCF から助成を受けた団体の再申請は可能であるが、「継続支援」の意義が特にあるかどうか、重点的な審査となる。

#### 4. 助成期間

2005年10月1日から2006年9月30日まで

5. 助成対象となる経費

助成対象事業に必要な次の経費

- (1) 謝礼金 外部協力者への謝礼金作業補助者への手当
- (2) 旅費 交通費、宿泊費
- (3) 物品購入費 備品費、機器類の購入費
- (4) 賃借料 事務室、会議室等の借料
- (5) 資料購入費 書籍、写真等の購入費
- (6) 印刷費 検討資料、配布資料、報告書等の印刷費
- (7) 通信費 郵便料金、電話料金、宅配費等
- (8) その他 上記項目に該当しない必要経費

6. 自己負担割合

助成対象事業の経費総額の20%以上が当NPO法人からの助成金以外で負担することが必要です。

7. 助成額の減額査定(略)

8. 助成金の支払

助成金の支払は2005年10月末を予定しています。

9. 助成金の用途変更(略)

10. 申請締め切り 2005年6月30日(木)

11. 申請方法 申請書を郵送(簡易書留)によりNPO法人モバイル・コミュニケーション・ファンドあて送付

12. 選考結果 9月下旬に応募者全員に書面で通知予定。

【申請書等送付先・問合せ先】

NPO法人モバイル・コミュニケーション・ファンド  
〒107-0052  
東京都港区赤坂2-4-5 国際赤坂ビル19F  
TEL:(03)5545-7711  
FAX:(03)5545-7722  
E-mail:info@mcfund.or.jp

「2005年度ブルーアース基金助成金」

この基金は、社団法人札幌青年会議所のブルーアース宣言に基づく札幌市民の生活・文化の向上に寄与するまちづくり並びに人づくりを目的として活動している団体への助成金の給付をとおしてその活動を支援することを目的とします。

【申込資格】

- (1) 札幌市民の生活・文化の向上に寄与するまちづくり並びに人づくりを目的として活動している札幌市内の団体が計画する札幌市内の事業であること
- (2) 2005年度ブルーアース基金テーマ「"発見!札幌らしさ"~魅力あるまちづくり~」に沿った事業であること
- (3) 発足後、活動を開始して1年以上経過しているか、それに相当する過去の活動実績を持っている団体。
- (4) NPO法人もしくは任意団体が対象
- (5) 助成を受けた場合、平成18年度のブルーアース基金助成金授与式にて事業報告をしていただきます。

【助成金額】総額100万円

助成金総額を上限に複数団体に助成する場合があります。

【応募期限】2005年6月30日(木)必着

【お問い合わせ先】

〒060-0001 札幌市中央区北1条西2丁目経済センタービル9階社団法人札幌青年会議所事務局内ブルーアース基金運営委員会  
TEL011-222-1439  
FAX:011-222-5801  
E-mail:info@sapporo-jc.or.jp

<http://sapporo-jc.or.jp/bu-hp/bu-hptop.htm>

Panasonic & JIYD 子どもサポーターズ マッチング基金【助成対象団体】

青少年のニーズに基づき、主として5~25歳の青少年の自立と健やかな成長に役立つ事業を2年以上継続的に実施している団体 法人格の有無を問わず、日本国内に活動の拠点を有する団体

【助成対象事業】

2006年1月1日~同12月31日までの間に実施、終了するもので、下記のいずれかのもので、

- ・団体の基盤強化 事務局機能や組織全般に係る課題解決を目指した団体運営能力の強化を図るもの。
- ・事業の質的向上 社会の変動や多様化する青少年のニーズに応えるため、青少年の健やかな成長に役立つ成果を上げている事業の、更なる質的向上を図るもの。

【助成金額】上限1団体150万円(助成率は支出総額の7割を限度とする)

【申請受付期間】2005年7月1日~15日(当日消印有効)

【募集要項の入手方法】

6月5日以降、協働事務局 JIYD のホームページ(<http://www.JIYD.org>)からダウンロードしてください。ダウンロードできない場合、事務局までご連絡いただければ郵送します。

【事務局】

特定非営利活動法人 青少年育成支援フォーラム(JIYD)  
〒108-0074 東京都港区高輪4-10-63-202  
TEL:03-3440-3373 FAX:03-3440-4447  
担当:鈴木 E-mail:grant@JIYD.org  
URL:<http://www.JIYD.org>  
松下電器産業株式会社コーポレートコミュニケーション本部 社会文化グループ  
〒571-8501 大阪府門真市大字門真1006  
TEL:06-6906-1528 FAX:06-6906-4124  
担当:ジーナ  
E-mail:sacchetti.gina@jp.panasonic.com  
URL:<http://panasonic.co.jp/ccd/>

【Panasonic & EFF 環境サポーターズ マッチング基金】【助成対象団体】

環境問題の改善・解決を目的とした、より環境負荷の低い暮らしの提案、実践、施策の普及、啓発を2年以上継続的に実施している団体

(例)「市民を対象とした環境学習(教育)」「自然エネルギーの推進」「リサイクルや省エネルギーの推進」「環境に配慮した街づくり」「環境家計簿の普及」など法人格の有無を問わず、日本国内に活動の拠点を有する団体

【助成対象事業】2006年1月1日~同12月31日までの間に実施、終了するもので、下記のいずれかのもので、

- ・団体の基盤強化 事務局機能や組織全般に係る課題解決を目指した団体運営能力の強化を図るもの。
- ・事業の質的向上 多様な環境問題に対し、より環境負荷の低い暮らしを実現する成果を上げている事業の、更なる質的向上を図るもの。

【助成金額】上限1団体100万円(助成率は支出総額の7割を限度とする)

【申請受付期間】2005年7月1日~15日(当日消印有効)

【募集要項の入手方法】

6月5日以降、協働事務局 EFF のホームページ (<http://www.eco-future.net>) からダウンロードしてください。

ダウンロードできない場合、事務局までご連絡いただければ郵送します。

**[事務局]**

特定非営利活動法人 地球と未来の環境基金 (EFF)  
 〒101-0041 東京都千代田区神田須田町 1-5 新須田町共同ビル 2F TEL: 03-5298-6644  
 FAX: 03-5298-6635 担当: 古瀬  
 E-mail: [eff@eco-future.net](mailto:eff@eco-future.net)  
 URL: <http://www.eco-future.net>  
 松下電器産業株式会社コーポレートコミュニケーション本部 社会文化グループ  
 〒571-8501 大阪府門真市大字門真 1006  
 TEL: 06-6906-1528 FAX: 06-6906-4124  
 担当: 松吉  
 E-mail: [matsuyoshi.tetsuya@jp.panasonic.com](mailto:matsuyoshi.tetsuya@jp.panasonic.com)  
 URL: <http://panasonic.co.jp/ccd/>

**「マイクロソフト NPO 支援プログラム」の公募**

~IT を活用した NPO の活動を助成~

マイクロソフト株式会社(本社:東京都渋谷区、代表執行役 社長:マイケル ローディング)は、IT を活用した特定非営利活動法人(以下、NPO)などの市民活動団体活動を支援する「マイクロソフト NPO 支援プログラム」の第4回の公募を2005年6月1日(水)より開始します。マイクロソフトは、「世界中のすべての人々の持つ可能性を最大限に引き出すためのお手伝いをする」という企業ミッションのもと、1) デジタルデバイドの解消と教育環境の向上、2) 安全かつ信頼できるインターネット社会の実現、3) 責任ある企業活動、4) 産業振興と地域経済への貢献、という4つのテーマを柱に企業市民活動を展開しています。本プログラムは、企業市民活動の一環として、NPOなどの市民活動団体がITの活用を通して、様々な社会課題の解決につながる支援をすることを目的に実施しています。今年度は、昨年度と同様、「ITの活用」に重点を置いた市民活動団体に対する助成を行っていきます。

「マイクロソフト NPO 支援プログラム」は、2002年より毎年実施されており、国内で活動する市民活動団体を対象に、IT を活用したプロジェクトを一般公募し、マイクロソフトおよび外部の選考委員によって選考する一般公募型の助成金プログラムです。マイクロソフトは、助成先の団体に対して、1年間にわたり、1団体について上限300万円(合計2000万円)の助成金を提供します。さらにマイクロソフトのソフトウェア製品の寄贈やマイクロソフト社員ボランティアによるIT相談会も実施し、助成対象プロジェクトのITの活用による活動の拡大を支援します。

過去3回の「マイクロソフト NPO 支援プログラム」を通じて、視覚障害者のための言葉の道案内のウェブサイトの制作と普及、がん患者および家族のための「セカンドオピニオン」情報基盤構築、遠距離介護者および故郷の老親にとって役立つサービスのクチコミ情報を共有するウェブサイト開設事業、ITによる在日ブラジル人子弟のための母国語教材等作成プロジェクトなどさまざまな分野の活動を支援しており、累計24団体に助成をしてきています。

「マイクロソフト NPO 支援プログラム」の概要

**(1) 助成対象プロジェクト**

「ITの活用」に重点をおいたプロジェクトで、以下のテーマのうちいずれか、もしくは両方に当てはまるものを分野にかかわらず、助成の対象としています。

「人々の可能性を最大限に引き出す」活動

応募団体や受益者の可能性を広げ、豊かな夢のある生活をもたらす活動

「社会的課題の解決をめざす」活動

住みよい社会を実現したり、さまざまな社会的課題を解決する活動

**(2) 助成対象団体**

日本国内に活動拠点をもち、日本国内で活動するNPO(法人格の有無や種類は問いません)

法人格を有する場合には活動年数は問わない。ただし、法人格を持たない団体は2年以上の活動実績が必要

基本的なITの使用が可能なこと

**(3) 助成内容(予定)**

助成金額: 1件あたり上限300万円

助成総額: 年間2,000万円

(4) 助成期間 2006年1月より1年間

(5) 応募期間

2005年6月1日(水)から7月20日(水)まで

(6) 応募方法

第4回マイクロソフト NPO 支援プログラム公式サイト (<http://www.microsoft.com/japan/npo>) から応募用紙をダウンロードし、所定の事項を記入の上、電子メールアドレスで送信。

資金以外の支援

本プログラムでは、資金の助成以外にも下記のような支援・協力を、希望する助成先団体に対して行います。

プロジェクトに必要なマイクロソフトのソフトウェア製品を一定の条件のもとに寄贈

マイクロソフト社員ボランティアによるIT相談会の開催を予定

マイクロソフトの社会貢献活動について

マイクロソフトでは「世界中の人々の持つ可能性を最大限にひきだすお手伝いをする」というミッションのもと、ITを軸にした社会貢献活動を行っています。現在、日本では、「マイクロソフト NPO 支援プログラム」、および「UP(Unlimited Potential)プログラム」、「リユース PC 寄贈支援プログラム」を実施しています。「UPプログラム」は、マイクロソフトが全世界で展開しているグローバルプログラムで、ITを活用する機会の少ない人々にITスキルアップの機会を提供し、彼らの可能性実現を応援するものです。「リユース PC 寄贈支援プログラム」は、パートナー企業・団体から寄贈された中古PCを再生して、マイクロソフトのソフトウェアをのせ、NPOへ寄贈するプログラムです。また、マイクロソフトは、社会貢献活動のほかにも、良き企業市民として、豊かな地域社会の実現に向け、「会社」と「社員」が一丸となって、積極的に様々な企業市民活動に取り組んでいます。

詳細は、以下のサイトからご参照ください。

<http://www.microsoft.com/japan/mscorp/citizenship/>

TOTO水環境基金

TOTO水環境基金 応募要項

助成の主旨と内容

このプログラムは、水と暮らしの関係を見直し、再生することをめざした創造的な取り組みに助成します。これにより、地域で暮らす人たちが共に、水と暮らしの多様な関係を学び、これからの水と暮らしの望ましい関係を考え、それぞれの地域の特徴を生かした、新しい仕組みや事業を創

りだす契機となることを期待します。

助成対象 下記の2つの活動を助成の対象とします。

(1)地域の水と暮らしの新しい文化の実現に向けた実践活動

(2)地域の水と暮らしの関係についての調査研究活動

活動分野は、環境、まちづくり、芸術、こども、教育、観光、交通、健康、福祉など幅広く想定しています。

助成期間 2005年10月1日～2006年9月30日

助成金額 総額約1,000万円とし、1件あたりの助成金額は上限100万円、助成件数は10件を予定。

助成費目 活動や事業に必要な経費(助成金額の30%までスタッフの人件費を含むことができます)

選考方法 選考は下記の基準にもとづいて社内選考委員会にて決定します。選考の過程で団体にインタビューに伺うことがあります。

(1)プロジェクトが契機となり、地域で水と暮らしの文化に関わる新しい仕組みや事業を創り出す可能性があるか。

(2)地域の暮らしに根ざした活動で、継続性が期待されるか。

(3)目的や内容が明確で、プロジェクトの必要性が高いか。

(4)実施手法や実施体制あるいは予算の面から、プロジェクトの実現性が高いか。

(5)地域に住む人びとが活動の中心となり、専門家の参加や協力を得ることで、より高い効果が得られるか。

選考結果

選考の結果は、2005年9月下旬までに文書にて連絡。

助成手続

助成を受ける団体の代表者は、東陶機器株式会社と覚書を取り交わし、これに基づいて計画を実施していただきます。

助成金は2005年9月末日までに支払います。

応募資格

(1)営利を目的としない市民活動団体(法人格の有無や種類を問わない)

(2)地域(日本国内)に根ざした活動をしている団体 等

応募方法

応募書類(所定の書式)に必要な事項をご記入の上、郵便または宅配便にてお送りください。応募用紙は、ホームページからダウンロードしていただくか、「郵便番号・住所」「団体名」「ご担当者名」「電話番号」を明記の上、「応募用紙郵送希望」をお書き添えの上、「TOTO水環境基金係」宛に、2005年6月23日(木)までにFAXにてお申し込みください。

応募締め切り 2005年6月30日(木)〔当日必着〕

応募書類送付先問い合わせ先

東陶機器株式会社 総務部 TOTO 水環境基金係 担当:清水

〒802-8601 北九州市小倉北区中島2-1-1

TEL:093-951-2052 FAX:093-951-2718

<http://www.toto.co.jp/company/mizukikin/oubo.htm>

michiru.shimizu@toto.co.jp

NHK障害福祉賞<募集部門と内容>

第1部門:障害のあるご本人の部門

学校や施設での生活、自立や就労への挑戦、また自分の生きてきた道など、あなた自身の体験の記録

第2部門:障害のある人とともに歩んでいる人の部門

教師、福祉施設職員、ボランティア、職場関係者、友人、家族など、障害のある方と日々接している方による部門です。教育・指導の実践、親と子の成長の記録、仕事や行事を通しての交流など、ともに生きてきた体験記

<応募規定>・未発表の作品に限ります。

・字数は8,000字(400字詰原稿用紙20枚)以内にまとめてください。\*ワープロ\*点字\*ご自分で書くことが難しい場合、代筆(清書・口述筆記など)可

・ 入選作品は、NHKまたはNHK厚生文化事業団が放送、出版物などで自由に使用できることとします。入選の場合、入選者名と障害名(障害のある人との関係)をあわせて公表します。ご了承ください。

<募集締め切り>~7月29日(金)当日消印有効

【最優秀】賞金50万円 副賞(2部門を通じて1編)

【優秀】賞金20万円 副賞(第1・第2部門各2編)

【佳作】賞金5万円 副賞(若干)

【矢野賞】賞金30万円 副賞(2部門を通じて1編)

<入選発表および入選作品発表>

入選発表

・11月中旬、全応募者に選考結果を通知するほか、当団情報誌・後援団体の機関誌などでも発表します。

・平成17年12月3日に、入選者(最優秀、優秀、矢野賞)への贈呈式と、第40回を記念したイベントを行います。

入選作品発表

・平成17年12月に入選作品を掲載した「実践記録入選集」を発行し、全応募者にお送りします。

また、関係各方面にも配布するほか、希望者には実費頒布します。

・入選作品は、NHKの番組でも紹介する予定です。

<申し込み・問合せ先>

NHK厚生文化事業団「第40回NHK障害福祉賞」係

〒150-0041

東京都渋谷区神南1-4-1 第七共同ビル

TEL:03-3476-5955 / FAX:03-3476-5956

<http://www.npwo.or.jp/topics/>

JATA日本旅行業協会HPより

平成17年度「JATA環境基金 地球にやさしい環境学習支援助成」募集について

小学校の「自然環境」をテーマにした学習活動を支援助成します。応募要項をご覧のうえ、お申し込みください。募集期間は平成17年6月1日から7月15日(必着)です。

【応募要項】

1. 助成事業の趣旨

環境保全是、子供たちが大人になる将来も取り組まなくてはならないものです。

小学校時代に経験したことは深く心に残り、大人になってからの行動に多大な影響を及ぼすといわれております。

JATA環境基金は、将来の環境保全是を担う小学生が取り組んでいる、自然をテーマにした「環境学習」を応援することで、将来の環境保全活動へ連動することを願い、支援助成致します。

2. 対象活動

日本全国の小学校における「自然環境」をテーマにした学習活動 「総合的な学習の時間」における活動をはじめ、

学年やクラス、またある課題に対する興味や関心別に編成されたグループ、異年齢の子どもたちによるグループなど、個人活動以外の諸活動を対象とします。

3. 応募条件

1) 地域の方々の協力

地域のボランティア団体をはじめ、PTA、自治会、子供会、町内会、商店会、婦人会、老人会、行政、企業、公益法人などの団体、または個人。

2) 活動の継続

事前事後の学習を通年もしくは複数年にわたり行うなど、1回きりのイベントでない活動。

4. 対象活動の実施期間

平成17年4月1日～平成18年3月末日に行なわれる活動を対象とします。但し、物品の助成は、平成17年9月以降になります。

5. 助成の内容 応募活動の実施に必要な不可欠な物品の購入費として、原則として一つの活動に対し、10万円を上限として助成します。

6. 応募のために必要なもの

1) 応募用紙<PDF ファイル> 所定の書式に、応募活動にかかわる担当教諭、もしくは地域の協力者がご記入ください。

2) 応募活動の年間学習計画 書式は自由です。既存のものを添付いただいても構いません。

3) 活動状況や現場の様子が分かる写真(5枚程度) 所定の貼付用シートにお貼りください

原則として、応募の際の提出物は返却いたしません。また、応募用紙記載情報について、印刷物やホームページ等で公表させていただくことがございますのでご了承ください。

7. 募集期間 平成17年6月1日から7月15日(必着)

8. 審査選考ならびに決定

選考基準: 児童の主体性、活動の意義、地域の協力者との連携、活動の継続性、活動の安全性、学習効果、波及効果などを重視して審査選考します。

審査選考にあたり、必要に応じて電話によるヒヤリングをさせていただくことがありますのでご協力をお願いします。

(社)日本旅行業協会の社会貢献委員会にて、審査決定する予定です。

助成の応募と審査・決定の流れ(予定)

応募受付期間 6月1日～7月15日

書類審査 7月15日～8月初旬 結果通知 8月下旬

物品の助成 9月初旬～

9. 結果通知

選考結果は平成17年8月末までに、応募者全員に文書にてご報告いたします。

10. 物品の交付方法 結果通知後に、領収書での精算(一括振込み)を行いません。

物品の帰属は小学校になります

当基金から活動現場まで出向き、目録を贈呈させていただきます。

11. 応募先・お問合せ先 社団法人日本旅行業協会

〒100-0013 東京都千代田区霞ヶ関3-3-3

全日通霞が関ビル3階 業務部業務第2グループ

TEL:03-3592-1274 FAX:03-3592-1268

Email: gyomu2@jata-net.or.jp

ホームページ <http://www.jata-net.or.jp/>

注)「JATA 環境基金」とは、以下の目的を達成するために運営されている(社)日本旅行業協会の基金です。

1. 観光地における自然・文化遺産の保護

2. 自然保護と地域社会の持続的発展に貢献するエコツーリズムの促進

3. 日本人旅行者の環境意識およびマナーの向上

ユニベール財団

「新しい世紀の社会づくり」をテーマとした市民活動助成 高齢者を対象とした市民活動は、これからの社会を支えていくために不可欠な社会資源となっています。一方、高齢者自身の社会参加も活発になっています。

ユニベール財団では、豊かで活力ある長寿社会の実現をめざして、一人ひとりが生き生きと充実した人生を送ることができる新しい世紀の社会づくりやコミュニティ再構

築等の活動に助成を行います。

21世紀は、また、「グローバル市民社会」と言われます。活動は国内に止まらず、世界に拡げて、助け合うことが大事ではないでしょうか。当プログラムでは、国際支援・交流等を行っている市民活動団体にも広く活動助成を行います。

市民活動助成応募要項

助成の対象

特に次の項目に該当する団体を助成対象とします。

1. 高齢者が活動する市民活動団体

2. 高齢者の医療・保健・福祉、まちづくり等、高齢者を対象とする市民活動を行う団体

助成期間および金額 1年間。原則として1件当たり100万円を限度といたしますが、助成額については活動内容、および規模により査定をさせていただきます。

助成金の使途 市民活動、または催し物等の事業に直接要する諸経費

(既に終了した活動・事業については含みません。)

応募方法 当財団所定の申請書に必要事項を記入の上、当財団あてご送付ください。(紛失等のトラブルを避けるため、なるべく書留や宅配便でお送りください。)

助成にあたって

助成が決定した活動・団体につきましては公表いたします。助成年度もしくは事業完了後に「報告書」を提出していただきます。

応募締切日 平成17年7月31日(必着)

発表 平成17年11月1日予定

助成金振込 平成17年11月中旬予定

申請書類送付先 財団法人 ユニベール財団

〒160-0004 東京都新宿区四谷2-14-8 YPCビル5階

TEL:03-3350-9002 Fax:03-3350-9008

E-mail: info@univers.or.jp

URL: <http://www.univers.or.jp/>

#### NPO法人 NPO推進北海道会議

代表理事 田口 晃 (北海学園大学教授)

杉岡 直人 (北星学園大学教授)

杉山さかえ (北海道グリーンファンド 理事長)

事務局長 佐藤 隆

#### NPO法人 北海道NPOサポートセンター

理事長 杉山さかえ 事務局長 小林董信

#### NPO法人 北海道NPOバンク

理事長 杉岡 直人

NPOバンク事業組合 理事長 高木 晴光

#### NPO法人 北海道NPO越智基金

代表理事 田口 晃

〒060-0062 札幌市中央区南2条西10丁目

クワガタビル2F

TEL(011)204-6523 FAX(011)261-6524

E-mail npo@mb.infosnow.ne.jp

URL <http://npo-hokkaido.org/>

相談センター/研修室

〒060-0005 札幌市中央区北5条西6丁目

札幌ビル8階 電話011-271-5208

FAX011-281-8807